

金沢21世紀美術館 2025年度事業のご案内

21年目を迎えた金沢21世紀美術館 改めて原点に立ち返って

金沢21世紀美術館は、今年開館21年目を迎えました。当館はこれまで現代美術の新しい動向を絶えず注視し、国際的な視野に立って作品収集と展覧会を行ってきました。また同時に市民や来館者とともに歩む交流の場として、様々な取り組みを行ってきました。

2025年度も最新のアートや同時代の表現を紹介するプログラムを数多く展開してまいります。また参画交流型の美術館として、ボランティアを含む市民の方々や、サスティンメンバー、商店街や友の会会員といった皆様の理解や協力を得ながら、多様性が尊重され、誰にとっても来館しやすく楽しみを見つけることのできる美術館を目指してまいります。

開館して20年が経過しましたが、こうした姿勢は変わりません。次の10年を見据え、新たな価値観を築く場所として活動してまいります。

金沢21世紀美術館の目指すもの

ミュージアムとまちとの共生により、新しい金沢の魅力と活力を創出していきます。

- 新しい文化の創造
- 新たなまちの賑わいの創出

金沢21世紀美術館の4つの特徴

1. 世界の「現在(いま)」とともに生きる美術館
2. まちに生き、市民とつくる、参画交流型の美術館
3. 地域の伝統を未来につなげ、世界に開く美術館
4. 子どもたちとともに、成長する美術館



浅井裕介《星、飛び散る/太陽の一番近くへ》2024 撮影：田口まき



SIDE CORE (new land) 2024
© SIDE CORE

金沢21世紀美術館

広報担当：落合、石川、吉富 〒920-8509 石川県金沢市広坂1-2-1

TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802 MAIL press@kanazawa21.jp

※本内容は2025年2月現在の予定です。展覧会名やイベント名、会期などは変更になる場合があります。最新の情報は直接お問い合わせください。

展覧会

2025年度は、多様な美術表現がある現代アートにおいて、絵画に注目したグループ展と、ストリートカルチャーを切り口に「公共空間における表現の拡張」を探究するアートチームSIDE COREの個展の開催を通して、同時代を生きる作家が捉えた世界の「現在(いま)」を紹介します。

接続する絵画 (仮)

4月29日(火・祝) – 9月28日(日)



浅井裕介《星、飛び散る/太陽の一番近くへ》2024 撮影：田口まき

ポストモダン以降、絵画は従来のタブローとしての絵画から脱却し、絵画それ自体をメディアム化する方向へと展開していきました。本展は、対極する戦後ドイツの画家、ゲルハルト・リヒターとアンゼルム・キーファーを起点に、絵画における表現の可能性を探究し、それぞれの手法、視点から独自の「絵画」に取り組むアーティストの作品を紹介します。オブジェを組み合わせリジェーションを排除するような絵画、空間全体を取り込むような絵画、作者が架空と実在を行き来するような絵画、現実と虚構に揺さぶりをかける絵画、パフォーマンスや映像を組み合わせた絵画、絵画それ自体の存在を問うような絵画。こうした取り組みは、私たちの現実の世界と深い繋がりを結んでいます。精神的なものから社会情勢までこの世界との繋がりをもつ絵画は、物理的、空間的な関係を現実世界と築きながら、私たちに多くの思考と気づきを与えてくれるでしょう。



ゲルハルト・リヒター
《アブストラクト・ペインティング (CR 845-5)》
1997
金沢21世紀美術館蔵
撮影：木奥恵三



ユアサエボシ《夢》2021
金沢21世紀美術館蔵
撮影：木奥恵三



松崎友哉《河岸》2025
撮影：Alastair Levy

SIDE CORE

10月18日(土) – 2026年 3月15日(日)



5

SIDE CORE (new land) 2024
© SIDE CORE

SIDE COREは、ストリートカルチャーを切り口に「公共空間における表現の拡張」をテーマに活動するアートチームです。都市や路上で生まれる表現の可能性を探求し、公共空間を舞台としたプロジェクトベースの作品を多数発表してきました。彼らの作品は、その土地と風景に新たな視座を与えることを重視しています。本展では、SIDE COREが2024年度の当館アーティスト・イン・レジデンス (AIR) プログラムに参加し、金沢市内および能登半島で行ったりサーチと作品制作の成果を展示します。特に能登半島でのリサーチは、2024年1月1日に発生した能登半島地震を契機に行われ、震災がもたらした土地の変化への理解を深めることを目的としています。これまでの地域リサーチの蓄積を踏まえ、本展では「危機に対してアートは何ができるのか」という根源的な問いに挑戦し、SIDE COREの公共空間に対する独自の視点と、芸術がどのように社会に対して新たなバイパス（抜け道）としての可能性をもたらすのかを紹介します。



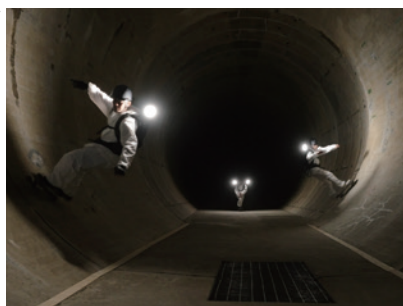
6

SIDE CORE (big letters, small things) 2024
© SIDE CORE
photo: OHNO Ryusuke



7

SIDE CORE (blowin' in the wind) 2023
© SIDE CORE
photo: Kichiro Okamura
Courtesy of Oku-Noto Triennale 2023



8

SIDE CORE (rode work ver. under city) 2023
© SIDE CORE

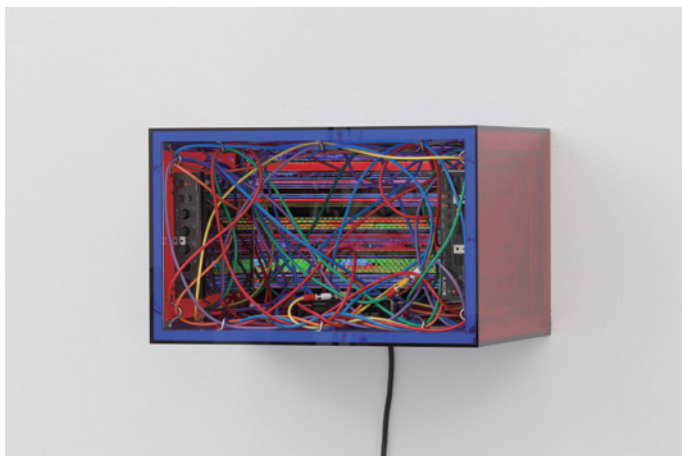
コレクション展

金沢21世紀美術館では、開館前の2000年からこれまでに約4,200点の現代美術作品を収蔵してきました。2025年度は、物質の性質をいかした作品で観る人の知覚を揺さぶる「コレクション展1」、文字を用いた表現の魅力を現代アートの芸術表現として展望する「コレクション展2」など、当館の若手学芸員による意欲的な展示を皆様にお届けします。

コレクション展1 マテリアル・フィーバー（仮）

5月24日（土）－ 9月15日（月・祝）

本展は当館の所蔵作品から、物質世界への関心を出発点とした作品を紹介します。素材の物理・化学的性質をいかし、表現の可能性を広げた作品、または通常では目に見えない物理法則を現前させ、観る人の知覚を揺さぶる作品を通して、私たちが身を置く世界への眼差しを拡張させる創造力を体感できます。



河合政之《Video Feedback Configuration No.19 Plexiglass Box》2023
金沢21世紀美術館蔵
© KAWAI Masayuki
撮影：木奥恵三

コレクション展2 文字の可能性（仮）

9月27日（土）－ 2026年1月18日（日）

私たちが日常生活の各所で使っている文字は、コミュニケーション手段としてだけでなく芸術表現としても様々な展開を見せています。本展では、現代アート作品における文字の存在という切り口から、書・絵画・陶・インスタレーションなど多様なコレクション作品を紹介します。作品の文字がもたらす意味や、文字を書く（描く）／読むという行為の表れに着目しながら、文字を用いた表現の魅力と奥深さに迫ります。



柿沼康二《一：BOSE Ver.》2011
金沢21世紀美術館蔵
© KAKINUMA Koji
撮影：末正真礼生

コレクション展3

2026年1月31日（土）－ 5月10日（日）

ジャネット・カーディフ 40声のモテット

5月24日(土) – 9月15日(月・祝)

当館コレクション作家のジャネット・カーディフによる『40声のモテット』を国内巡回展示します。16世紀イングランドの作曲家トマス・タリスの「40声のモテット」(Spem in Alium)を基に、40台のスピーカーから再生される聖歌隊の40人の声が、空間を彫刻のように構築するサウンドインスタレーションです。楕円形に配置されたスピーカー1台ごとに個々の声が響き、重層的に音が重なり合うことで、まるでその場に40人の合唱が生まれるかのような臨場感と、音と空間の融合が体験できます。



11

ジャネット・カーディフ《40声のモテット》2001
Johanniterkirche, Feldkirch, Austria, 2005. Photo by Markus Tretter.
Courtesy of the artist and Luhring Augustine, New York / Gallery Koyanagi, Tokyo.

オトボン・ンカンガ (仮)

9月27日(土) – 11月24日(月・振)

ナイジェリアに生まれ、ベルギーを拠点に活動するオトボン・ンカンガは、土や大地、海などが人間との関係の中で持つ物語や政治性に焦点を当ててきました。作家が石川県内のさまざまな素材や工芸技術をリサーチした成果として、職人たちとのコラボレーションでできあがる新作をお披露目します。また、当館が新たに収蔵したタペストリー作品も合わせて公開します。



12

オトボン・ンカンガ《Tied to the Other Side》2021
金沢21世紀美術館蔵
Photo: Wim van Dongen

ゴンホンチュン
江康泉 ドラゴズ・デリュージョン (仮)

10月18日(土) - 2026年 3月22日(日)

香港で活動するマレーシア出身のアーティスト
ゴンホンチュン
江康泉 (Kongkee) の代表作、SF漫画・アニメ
ドラゴズ・デリュージョン リソウゲンカク
シリーズ《Dragon's Delusion》(原題《離騷幻覚》)
を中心に展示します。同作が描くのは、人間と
アンドロイド、サイボーグが共存する不老不死
が実現した世界。そこでは、不老不死と引き換
えに完全な監視下に置かれる人々と、それを放棄
する「祭司」と呼ばれる人々がいます。祭司で
あった屈原の記憶と人格を複製されたアンドロ
イドの主人公^{ソフ}が、現実と記憶を行き来しなが
ら己の自由意志を確かめる時空を超えたサイ
バーパンクの物語を展開します。マスメディアが
世界中に広げた西洋中心の未来像と異なる、江
が描くアジアの文化と歴史に基づく未来像「アジ
ア・フューチャリズム」を紹介します。



Kongkee (Singer) 2018
© Kongkee, courtesy of the artist

13

令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨復興支援事業

ひと、能登、アート。

12月13日(土) - 2026年 3月1日(日)

東京国立博物館をはじめとする東京所在の美術
館・博物館の所蔵作品を一堂に公開。能登半島
の地震と豪雨で被災した人々に寄り添い、心を癒
し励ますため、復興を支援する想いを込めた作
品を参加する各館が自ら選び、当館ならびに石
川県立美術館(2025年11月15日～12月21
日)、国立工芸館(2025年12月9日～2026年
3月1日)でご覧いただけます。本展が、被災さ
れた方々への励ましのメッセージとなることを
願っています。

主催: 石川県立美術館、金沢21世紀美術館、
国立工芸館、石川県、金沢市、東京国立博物館



寒山拾得《2023-06-27》 横尾忠則 2023年

14

デザインギャラリー

人々の生活をより豊かにするデザインやテクノロジーが社会に果たす役割に着目し、業界の第一線で活躍するアーティストやクリエイター、企業とのコラボレーションを探るなど、発想力、技術力、デザイン性に富んだ各分野最先端の取組みを紹介します。

ALTEMY

MAGIC -次元の窓- (仮)

5月20日(火) – 10月5日(日)

建築デザインスタジオALTEMY は、建築のカタチがもつ魔法を使い、日常に豊かな変化を与えてきました。今回、金沢21世紀美術館という建築と対峙し、その空間に小さなトリックを仕掛けることで、訪れる人々は日常を疑うことになります。この展示を体験する度に、新しい発見と戸惑いが生まれるかもしれません。その魔法の効果は、あなた自身の感覚に委ねられています。空間がどのように語りかけてくるのか、その瞬間を体験できます。



ALTEMY (Urban Experiment) 2019
都市の歩行空間に漂う浮遊体が、感性に働きかける

アペルトシリーズ

「アペルト」(イタリア語で『開くこと』)は、若手作家を中心に個展形式で紹介する展覧会シリーズです。世界の「現在」とともに生きる美術館として、今まさに興りつつある新しい動向に目を向け、作品発表の機会を通じて未来の創造への橋渡しをします。

アペルト19 森本啓太

5月20日(火) – 10月5日(日)

森本は16歳でカナダへ移住し、同国を中心に海外で油彩画を発表してきました。2021年以降は東京とカナダの二拠点で活動をしています。風景画や人物画を、ドラマチックな光の表現と古典技法を用いて、ありふれた街並みを劇的な世界へと変貌させます。自動販売機やファストフード店、駐車場といった日常的な主題に焦点を当てることで、現代生活における構造的な脆弱性や道徳的規範に疑問を投げかけます。



森本啓太《Digital Whispers》2023

アペルト20 津野青嵐

10月18日(土) – 2026年 3月22日(日)

精神科病院で看護師として働いたかわらでデザインを学んだファッションデザイナー、津野青嵐。3Dペンで描くように制作した樹脂製のドレスで国際的な注目を集めた後、「浦河べてるの家」での勤務を経て、現在は大学院で身体に関する当事者研究を行っています。本展では、服作りを通して精神・身体との付き合い方を模索してきた津野の実践を、新作を含む作品やワークショップを通じて紹介します。



津野青嵐《“Wandering spirits” Collection(ITS contest challenge work: Denim material provided by DIESEL)》2018
撮影: Anne Yano

芸術交流事業

金沢21世紀美術館では、市民をはじめ、多様な価値観や背景を持つあらゆる人々が主体的に参加できる事業を実現し、美術館を介して、人と人、人と地域が有機的につながっていく、出会いと交流の「場」を共創します。

ステージ(観る・聴く・語る)

禅をテーマに市民とチェルフィッチュの岡田利規がつくる映像演劇

6月21日(土)～29日(日)

金沢21世紀美術館は、石川県が生んだ西田幾多郎や鈴木大拙の「禅の思想」を再考し、現代の生活の中にかしっていくアートプロジェクトを3ヵ年で進めてきました。チェルフィッチュの岡田利規による1年目の滞在調査、2年目のワークショップを経て、オーディションで選ばれた市民とともに「禅」をモチーフにした〈映像演劇〉作品をつくります。映像のみであるが演劇である、という〈映像演劇〉の手法によって、西田のテキストがどのようによみがえるのか、模索します。



チェルフィッチュの〈映像演劇〉「風景、世界、アクシデント、すべてこの部屋の外側の出来事」2020
札幌文化芸術交流センター SCARTS
©Kenzo Kosuge

芸術交流共催事業「&21+」アンド21プラス

加藤綾子《透明な身体》(仮)

10月4日(土)、5日(日)



19
©前澤秀登

多様で実験的なプレゼンテーションを美術館が共催者として支援するプロジェクトです。今年度は、ヴァイオリニスト・加藤綾子によるレクチャー・パフォーマンス。音だけでなく弾き手の身体性にも焦点を当てます。関連する交流プログラムも併せて実施し、アーティストとまち、人との相互の交流を促進します。また公演には高校生を無料招待するなど、若者層の鑑賞者育成にもつなげていきます。

高校生[15-18歳ユース]対象

劇的!バスツアー2025

夏・秋



20
「劇的!バスツアー2024
富山県利賀芸術公園」の
様子

高校生の劇場での舞台芸術鑑賞を支援する旅行型鑑賞プログラムです。高校生は特別料金でツアーに参加でき、美術館が厳選した舞台公演をご覧いただけます。鑑賞とともに、ナビゲーターによる車内トークや演出家、俳優などとのトークセッション、劇場の裏側を見学するバックステージツアーなども併せて実施します。豊かな劇場文化と出会うだけでなく、文化芸術に関わるプロフェッショナルな人や仕事を知る貴重な機会を創出します。

教育普及プログラム

キッズスタジオ・プログラム

休日プログラム「ハンズオン・まるびい!」
平日プログラム「まるびい すくすくステーション」



21
2024年度「ハンズオン・まるびい!」の様子

休日の「ハンズオン・まるびい!」では幼児～小学生とその家族を主な対象にした造形活動や作品鑑賞を実施しています。当館コレクション作品に関連した素材や技法、モチーフなどを取り入れたプログラムを楽しむことができます。平日の「まるびい すくすくステーション」では乳幼児向けに地域の子育て広場としての美術館での「憩い」と「情報提供」をしたり、日常の散歩コースとしても楽しめたりします。

金沢市内小学4年生全児童招待プログラム

ミュージアム・クルーズ

5月 - 2026年1月



23
2024年度「ミュージアム・クルーズ」の様子(コレクション展2 都市漂流 展覧会場)

金沢市内で学ぶ小学4年生を学校ごとに美術館へ招待するプログラム。地元の美術館に慣れ親しみ、作品鑑賞を通じて「感じる心」を養うことを目指しています。開館以来、金沢市教育委員会、引率の先生方、そして子どもたちと一緒に作品を見て、感じて、考えて話し合う作品鑑賞プログラム・メンバー「クルーズ・クルー」などの協力を得ながら、「金沢で生まれ育った子どもはみな美術館へ行ったことがある」環境を継続的に実現しています。

アートライブラリー・プログラム

毎月1回程度「絵本を読もう」



22
2024年度「絵本を読もう」の様子

『絵本を読もう』は、絵本を楽しみながら美術館に親しめるプログラムです。展覧会やテーマに沿った絵本の読み聞かせを行ったあと、担当キュレーターやエドゥケーターとともに作品鑑賞や造形活動、美術館の探検などを行います。絵本を通じて作品との新たな出会いや発見を促し、子どもから大人まで美術館を楽しめる機会を目指します。

中学生まるびいアートスクール

「考え方を考える」

8月 - 2026年1月(予定)



24
2024年度ワークショップ「なまこと だいたず」の様子

金沢市内の中学校を対象としてアーティスト・学校・美術館が協力して、美術鑑賞・制作のワークショップを行います。生徒たちはアーティストの世界の見方に触れながら、自分自身のことや世界にあるもの、社会の出来事などを自らの視点で見つめ、考え、思いを表現し、それらの成果を展覧会や記録集などの形で公開します。生徒たちがアートを通じて自由な自己探求や自己表現を追求し、のびやかに成長していくことを目指しています。

市民に開かれた美術館をめざして

市民美術の日 オープンまるびい2025

11月3日(月・祝)



25

2024年度「透明なまるびいに絵を描こう」
撮影：中川暁文

金沢市民が美術に親しみ、豊かな心を育む機会として、美術館主催の展覧会を無料で観覧できる日。市民専用のカウンターで身分証をご提示いただくと円滑に展示をお楽しみ頂けます。まるいびじゅつかん＝「まるびい」がより開かれるよう、「オープンまるびい」と題して、当館で活躍するボランティアメンバーや地域の方々、美術館スタッフが協力し、子どもから大人まで多世代多様な人々が楽しめるワークショップやトークプログラムなど、様々なプログラムを実施します。

みんなの美術館 みんなと美術館

通年



26

【参考画像】ワークショップ
「演劇をつくってみよう」
(2024年5月)
撮影：中川暁文

金沢21世紀美術館は人々の多様性が尊重され、芸術文化を通じた社会参加がより多くの人によってなされる美術館を目指しています。近年は手話をコミュニケーションに用いる「ろう者」の皆さんとともに楽しめるよう、手話通訳ありのワークショップやトーク、舞台上演などにも取り組んできました。今年度も地域の皆さんとともに、子どもから大人まで、障害の有無を問わず、互いの感性や気づきを尊重しあえるプログラムを実施していきます。

ボランティア活動

作品鑑賞や美術館での交流の場づくりなど、様々な事業でメンバーを募集しています。幅広い年齢層の方が、興味・関心に合わせて活動しています。

まるびい みらいカフェ

人と地域と美術館をつなぐアイデアを持ち寄り、美術館を舞台にメンバーが自主的に活動を作っていきます。



27

ミュージアム・クルーズ

5月～2026年1月

小学4年生の子どもたちとコレクション展を鑑賞し、美術館の散策をサポートします。

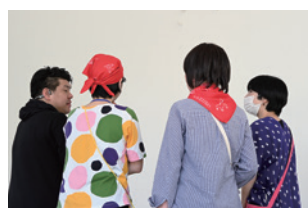


28

まるびい おしゃべり探検

5月～2026年3月の
奇数月の第2土曜日
(11月のみ11/3に実施)

来館者と少人数グループで館内交流ゾーンをおしゃべりしながら見て回ります。



29

広坂シネマクラブ

部員が主体となって、美術館で誰かと一緒に映画を「見る・作る・見せる」活動を通して、映画の素晴らしさを発信しています。

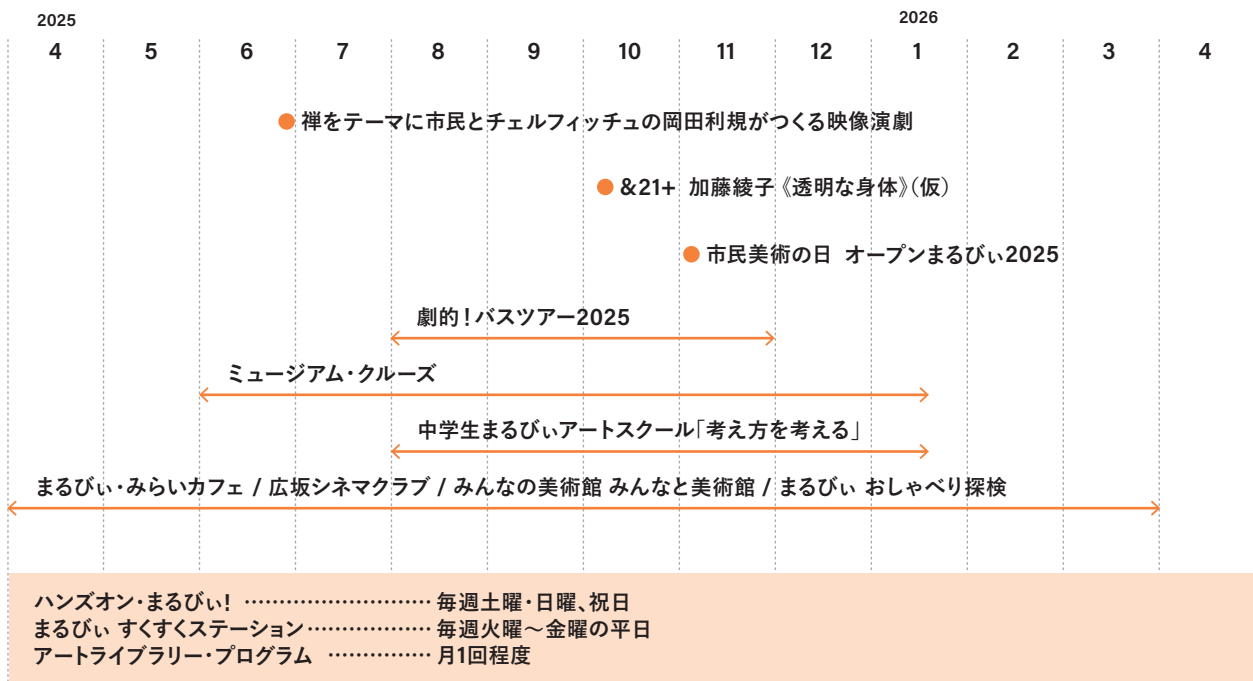


30

展覧会スケジュール



芸術交流事業スケジュール



※本内容は2025年2月現在の予定です。展覧会名やイベント名、会期などは変更になる場合があります。最新の情報は直接お問合せください。

料金表

展覧会名	会期	料金 (カッコ内:特別展WEB販売料金)				団体料金 (20名以上)		
		一般	大学生	小中高生	65歳以上	一般	大学生	小中高生
特別展「接続する絵画」(仮)	4月29日(火・祝)– 9月28日(日)	1,200円 (1,000円)	800円 (600円)	400円 (300円)	1,000円	1,000円	600円	300円
特別展「SIDE CORE」	10月18日(土)– 3月15日(日)	1,200円 (1,000円)	800円 (600円)	400円 (300円)	1,000円	1,000円	600円	300円
コレクション展1 マテリアル・フィーバー(仮)	5月24日(土)– 9月15日(月・祝)	450円	310円	無料	360円	360円	240円	無料
コレクション展2 文字の可能性(仮)	9月27日(土)– 1月18日(日)	450円	310円	無料	360円	360円	240円	無料
コレクション展3	1月31日(土)– 5月10日(日)	450円	310円	無料	360円	360円	240円	無料

※ WEB販売チケットは、当館WEBサイトからご購入いただけます(販売開始日は各展覧会によって異なります)。

※ コレクション展は同時開催の特別展チケットで観覧できます。

広報用画像

画像1～30を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、
当館プレスルームの画像提供ページからお申し込みください。

https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/

【使用条件】

※ 広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※ トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※ 情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報課へお送りください。

※ アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。